

新しい社会科地図帳に込めた願い

帝国書院編集部

●育成したいと願う生徒像

このたびの新しい社会科教科書の編集にあたり、私たちは、「公民的資質の基礎を養う」という社会科の目標に照らして、生徒たちに、家族や地元地域から国際社会にいたるまで、常に「社会のなかの一員」であることを知ってほしい、周囲のさまざまな人々に対して「共感」できる感性と、「ともに生きていく」姿勢をもってほしいという願いを込めました。

そして地図帳は、そのために大いに活用できる教材（教科書）であると考えています。社会科は勿論ですが、その他の科目でも大いに活用できる、また、学校教育だけでなく将来にわたって生きていく中で役立つ教材であると考えています。地図を見る目を養い活用できる能力は、自分たちは、けっして社会の傍観者ではないこと、自らが社会の一員であることを認識し、主体的に考え、意志決定し、行動していくことことにつながるものと考えています。このような願いを込めて、私たちは地図帳づくりを進めてきました。

●地図帳編集にあたって

毎日、たくさんのニュースが報じられていますが、地球上のさまざまなできごとは、場所を抜きにしては語れません。地図帳はそんなできごとの確認をする上で、欠かすことができない教材です。また、地図に表現されたさまざまな情報を読み取ることによって、いろいろな想像や予測が可能になります。そんな地図帳を「生徒が自ら使い、活用する」ことを願って、編集いたしております。

平成18年度からの地図帳は、「新しい視点を追求」して、また「生徒が使いやすい、読み取りやすい」ように改訂編集いたしました。

●地図帳はその時代を映している

昨年、『地図で見る昭和の動き』（複製版地図帳）を発刊しましたが、この地図帳は歴代（昭和9年

版、昭和25年版、昭和48年版）の中学校社会科地図帳を複製したものです。その時代に必要とされた図取り、そして資料図（テーマ図）と、各時代の特徴が地図帳に表れています。

平成18年度『中学校社会科地図（初訂版）』の改訂では、ヨーロッパ部の図取りを大きく変更しました。EUの拡大は今後もまだまだ広がるものと予想されます。時代の流れを見通した視点で改訂を行いました（p.13、20～23参照してください）。

●歴史的分野、公民的分野でも地図の活用を

地理の学習で地図の活用は必須ですが、歴史の学習でも活用していただきたいと、従来から多くの歴史事項等の情報を記載しております。この点は今後も続けていきますし、さらに活用場面を多くしてもらいたいと、大陸から見た東アジアと日本の図を改良しました。歴史学習にきっと役立つものと思います。

また、公民の学習でも使える統計資料を多数新設しました。「ごみの排出量」や「コンビニ軒数」など入れましたので、公民の授業でも活用していただきたく思っております。

●地図帳の活用を願って

「生徒の学習到達度調査（OECD）」が発表され、日本の学力低下が新聞紙上をにぎわせましたが、地理的知識の低下もだいぶ前からいわれています。世界のある国のことを考えるとき、その国の位置が頭の中にイメージできないと聞きます。

弊社で、「中学生の都道府県認識度調査」を行いました。都道府県名とその位置を正確に答えられた生徒は、40県以上が25.7%、30～39県が17.9%、20～29県が18.1%、10～19県が21.9%、10県未満が16.5%という結果がでました。。

ぜひとも、何かのときに地図帳を開き活用していただき、地理的な知識が身につくように願っております。その知識は、将来にわたって生活していく中で役立つものと信じております。